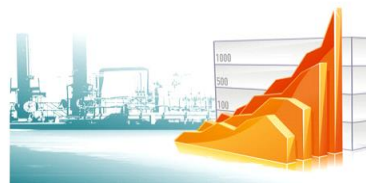


# ぎふ経済レポート



令和5年10月分  
岐阜県商工労働部

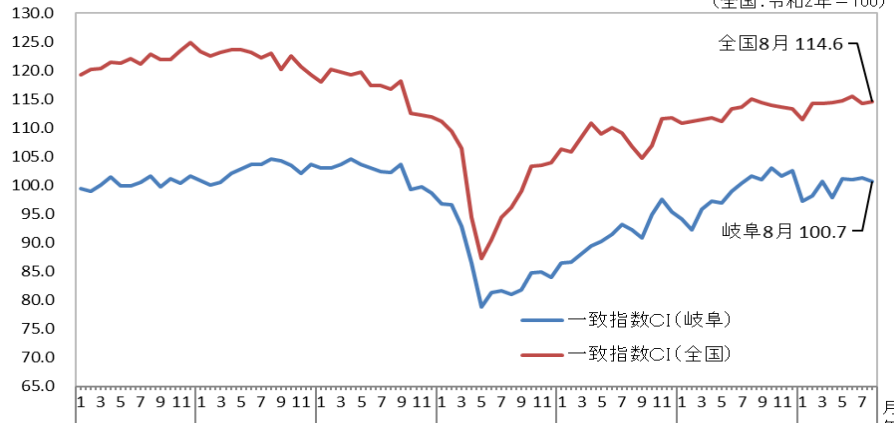
※企業等へのヒアリングは10月25日～27日を中心に実施し、11月13日時点で作成。

# 景気動向

○8月の景気動向指数(一致指数)は、100.7  
で前月比▲0.6ポイントとなった。  
○9月の県内中小企業の景況感は、▲20で  
前月比横ばいとなった。

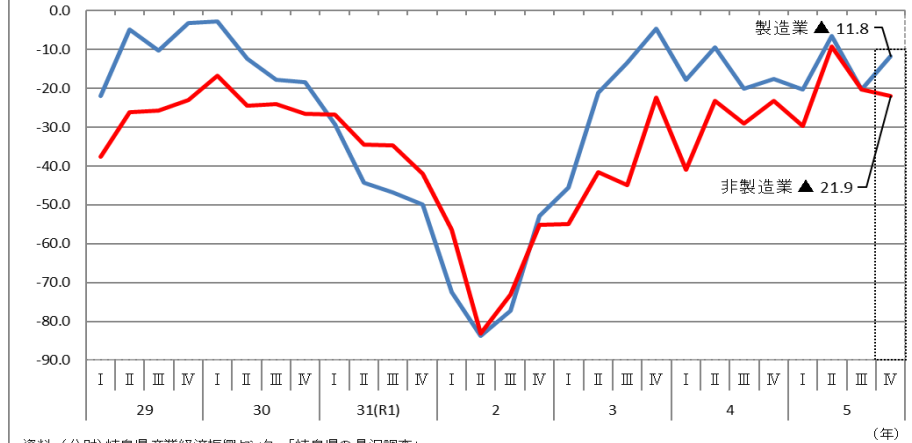
○10-12月期の景況DI見通しは、製造業で前  
期比8.5ポイント上昇、非製造業で同▲1.7  
ポイントとなった。売上高DI見通しは、製造業で  
前期比▲0.1ポイント、非製造業で同▲5.7  
ポイントとなった。

岐阜県及び全国の景気動向指数(一致指数)の推移 (岐阜:平成27年=100)  
(全国:令和2年=100)



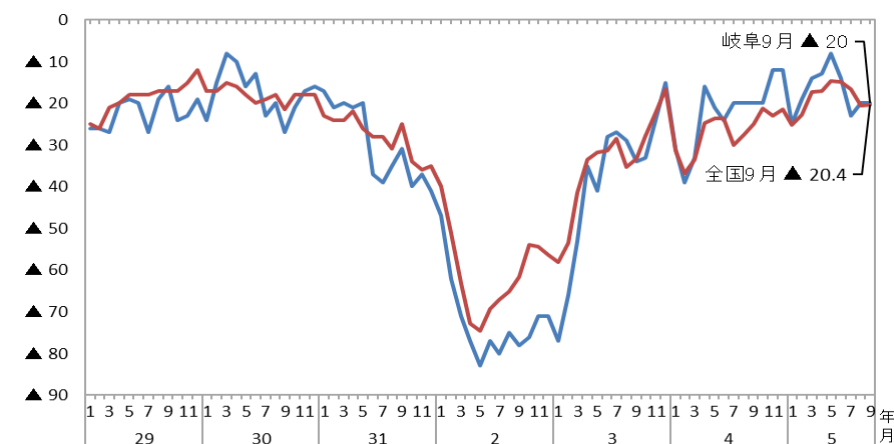
資料:県統計課「岐阜県景気動向指数」、内閣府「景気動向指数」

県内企業の景況DI(増加-減少)の推移



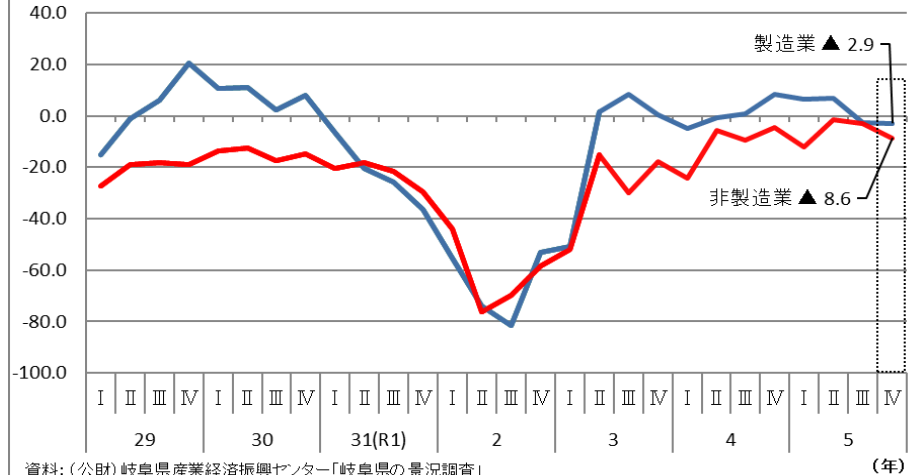
資料:(公財)岐阜県産業経済振興センター「岐阜県の景況調査」

岐阜県及び全国の中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



資料:岐阜県中小企業団体中央会「岐阜県内中小企業の景況動向」、全国中小企業団体中央会「中小企業月次景況調査」

県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移



資料:(公財)岐阜県産業経済振興センター「岐阜県の景況調査」

# 製造業

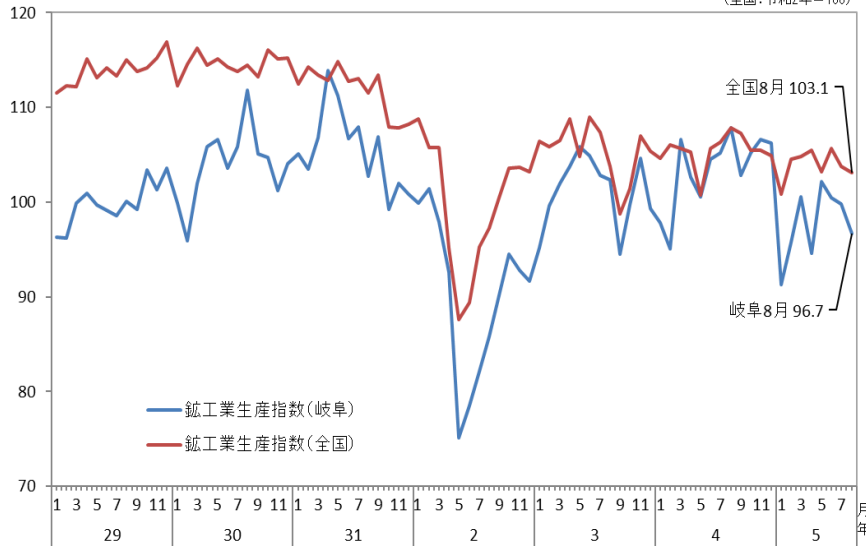
○8月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、96.7で前月比▲3.1%となった。

○産業別の前月比では、窯業・土石、化学工業、金属製品で上昇した一方で、輸送機械、電気機械、はん用、プラスチック製品工業、鉄鋼業、非鉄金属で低下した。

○8月の主な産業の指数は、窯業・土石で前月比10.1%、化学工業で同7.5%、金属製品で同2.7%上昇、輸送機械で同▲21.1%、電気機械で同▲5.6%、はん用で同▲5.0%、プラスチック製品工業で同▲4.4%、鉄鋼業で同▲2.9%、非鉄金属で同▲1.7%となった。

鉱工業生産指数の推移

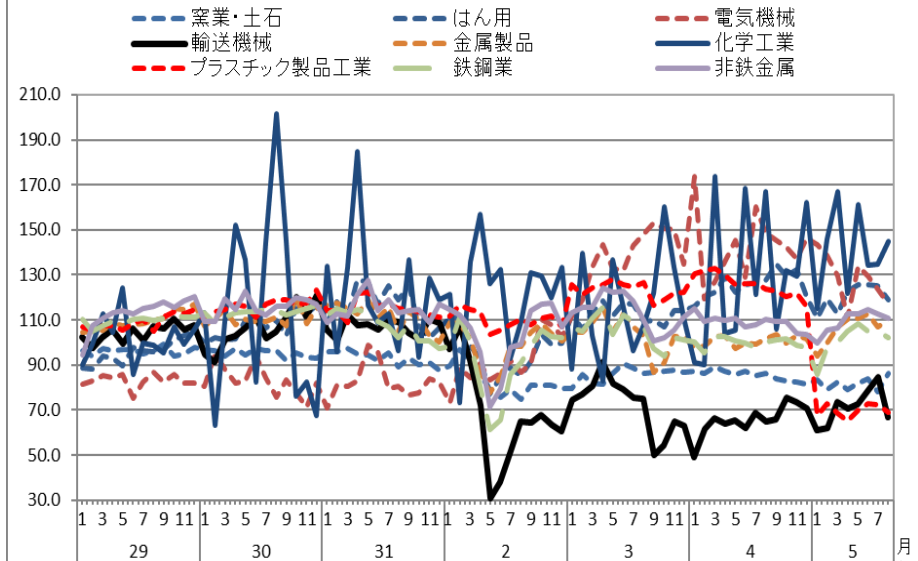
(岐阜:平成27年=100)  
(全国:令和2年=100)



資料: 県統計課「岐阜県鉱工業指数」、経済産業省「鉱工業生産指数」

主な産業の鉱工業生産指数

(平成27年=100)



資料: 県統計課「岐阜県鉱工業生産指数」

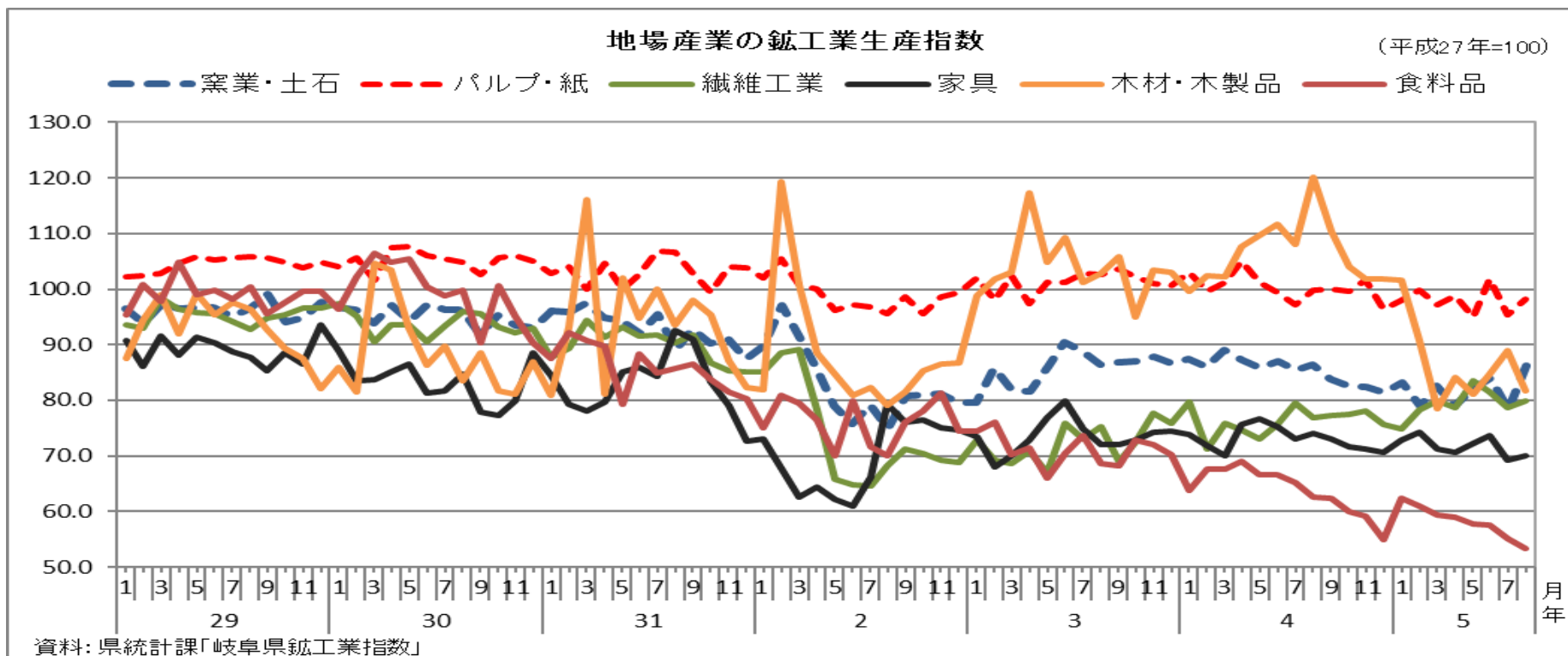
## 現場の動き

(※原油・原材料高騰、海外情勢等に伴う経済変動の影響はP6にも掲載)

- ◆ 円安や供給網改善による生産回復により、今年度上期の売上は前年同期比で増加した。(輸送機械器具)
- ◆ 価格転嫁は認められやすくなってきており、原材料価格上昇分の50%程度転嫁できている。しかし、残りは自社負担となっているため、引き続き顧客へ交渉していく方針。(輸送機械器具)
- ◆ 大手自動車メーカーの新車種の売上が好調であることや、電気代高騰分の補助があったことなどから、売上・利益とも前年比で増加している。(輸送機械器具)
- ◆ 工作機械業界は需要が落ち込み始めており、この先もしばらく続くと予想している。(電気機械器具)

## 製造業-2

○8月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、窯業・土石で前月比10.1%、パルプ・紙で同2.9%、繊維工業で同1.7%、家具で同1.3%上昇した一方で、木材・木製品で同▲8.2%、食料品で同▲3.1%となった。



### 現場の動き

(※原油・原材料高騰、海外情勢等に伴う経済変動の影響はP6にも掲載)

- ◆ 百貨店を中心に衣料消費は順調に回復している。インバウンド需要の相乗効果もあり、受注は好調である。(繊維・アパレル)
- ◆ 原材料価格の上昇は落ち着いているが、最近再びガス料金の値上がりが見られ、価格転嫁を行いたいが、今後の価格推移の予想が困難であるため、値上げに踏み切れない。(陶磁器)
- ◆ 円安の影響で材料の輸入コストが上昇していることや、原油価格上昇により製造コストが上昇しているため、今後も価格転嫁を実施していく方針。(紙)

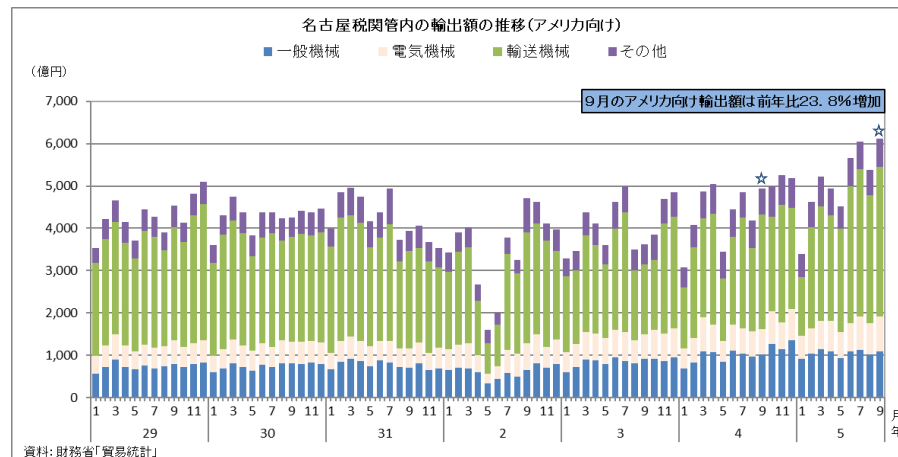
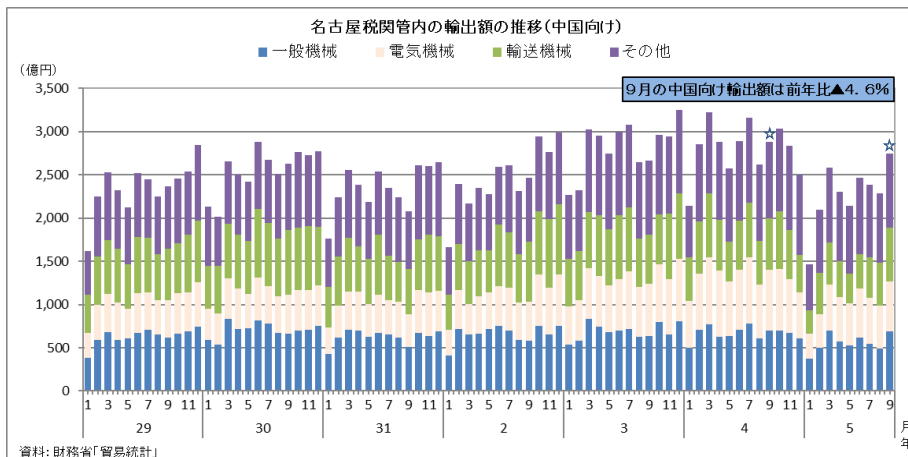
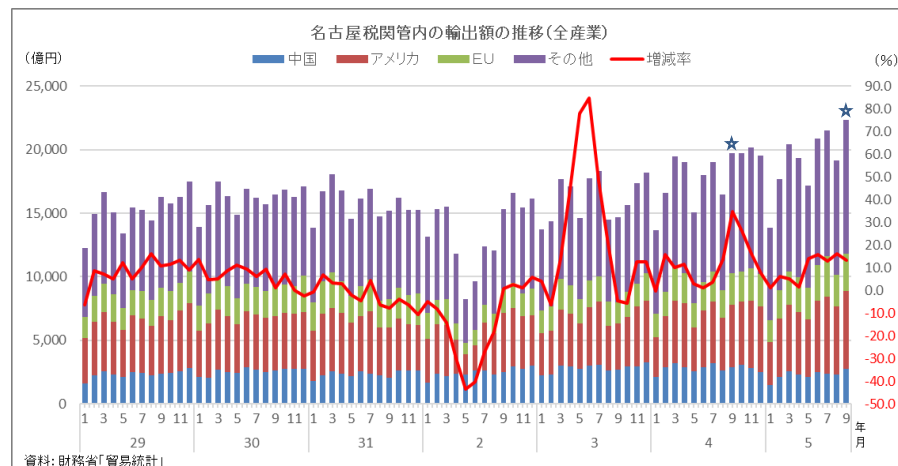
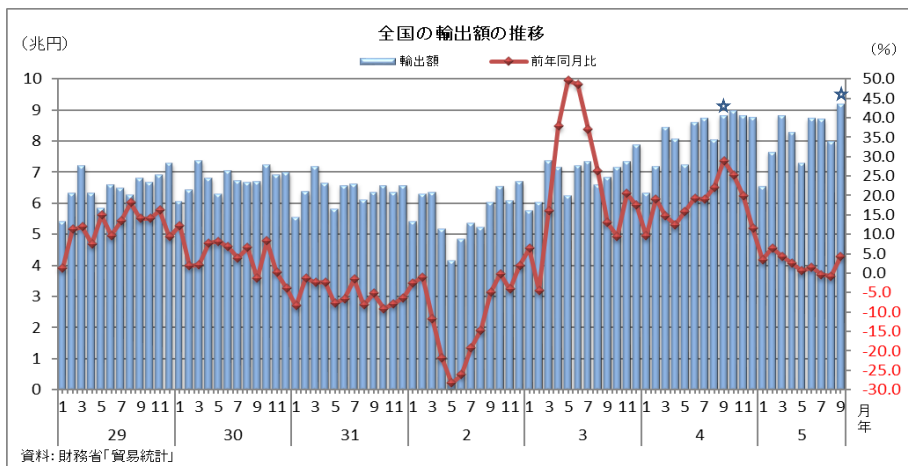
# 輸 出(名古屋税関管内)

○9月の輸出額(全国)は、9兆1,990億円の前年同月比4.3%増加となった。

○9月の輸出額(名古屋税関内)は、2兆2,343億円の前年同月比13.1%増加し、20ヶ月連続で前年同月を上回った。

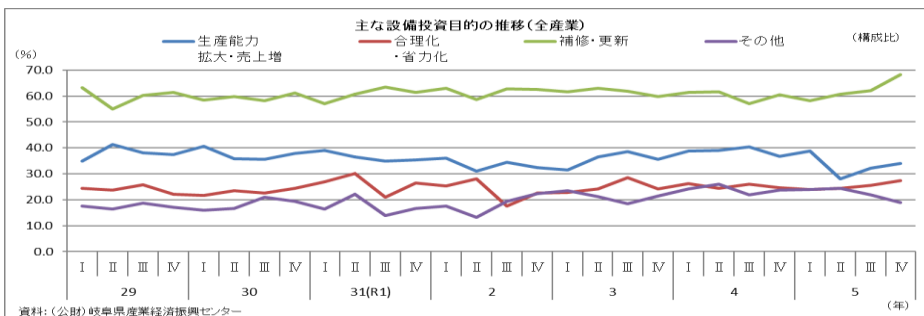
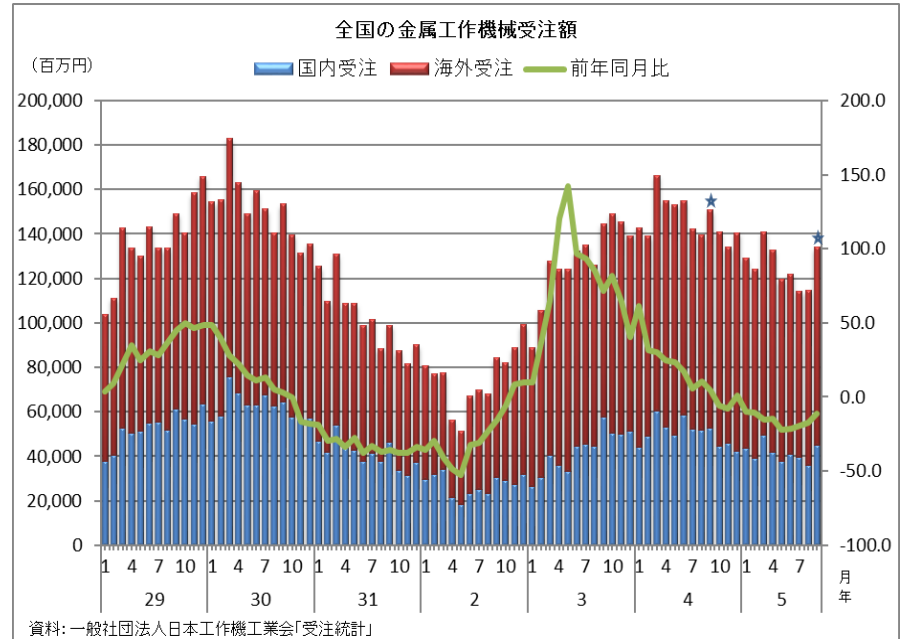
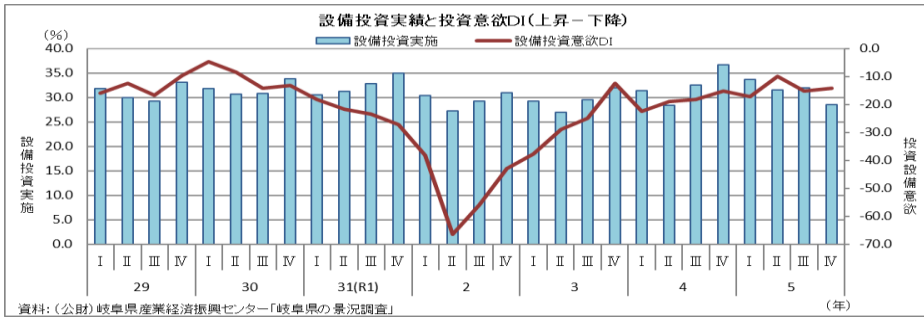
○中国向けは、全体で前年同月比▲4.6%となった。その内、輸送機械で同4.5%増加、電気機械で同▲17.0%、一般機械で同▲1.3%となった。

アメリカ向けは、全体で前年同月比23.8%増加となった。その内、電気機械で同34.7%、輸送機械で同30.8%、一般機械で同7.8%増加となった。



# 設備投資

- 10-12月期の設備投資実施見通しは前期比▲3.3ポイント、設備投資意欲DI見通しは同0.9ポイント上昇となった。設備投資実施実績の目的別では、「補修・更新」で前期比6.3ポイント、「生産能力拡大・売上増」で同2.0ポイント、「合理化・省力化」で同1.9ポイント上昇した。
- 9月の全国の金属工作機械受注額は、全体では前年同月比▲11.2%と9ヶ月連続で前年を下回った。内訳は国内受注は同▲14.1%と13ヶ月連続で前年を下回り、海外受注は同▲9.7%と9ヶ月連続で前年を下回った。



## 現場の動き

(※原油・原材料高騰、円安等に伴う経済変動の影響はP6にも掲載)

- ◆ インボイス制度に対応した経費精算システムを導入した。(輸送機械器具)
- ◆ EV化の先行きが不透明であるため、再来年以降の投資計画を見合わせている。(輸送機械器具)
- ◆ エネルギー費用上昇に対応する省エネ設備投資や、人手不足に対応するDX化、老朽化に伴う設備更新には取り組んでいるが、経営状況が悪化しているため、大規模な設備投資は控えている。(繊維・アパレル、刃物)
- ◆ IT強化のため、補助金を活用し、ネットワーク環境の整備等を実施した。(刃物)
- ◆ 生産管理や人事管理をペーパーレス化するシステムを導入した。(木工)

## 原油・原材料高騰に伴う経済変動の影響について

- ◆ 電気代の高騰について、過去の上昇分も価格転嫁に応じるメーカーが増えてきた。(非鉄金属)
- ◆ エネルギー費用を始めとした生産コストの上昇が利益を押し下げている。価格転嫁は仕入価格上昇分の半分程度にとどまっており、来月より4回目の値上げを実施する。(繊維・アパレル)
- ◆ 価格転嫁により売上は増加している。また、利益は為替差益の影響で増益となっている。(陶磁器)

## 海外情勢に伴う経済変動の影響について

- ◆ 建設機械分野は中国需要が更に悪化したため、部品の輸出が減少傾向にある。(生産用機械器具)
- ◆ 中国や欧州の景気減速により生産調整段階に入ったため、売上は前年比で減少している。(輸送機械器具、はん用機械器具)

## その他のヒアリング

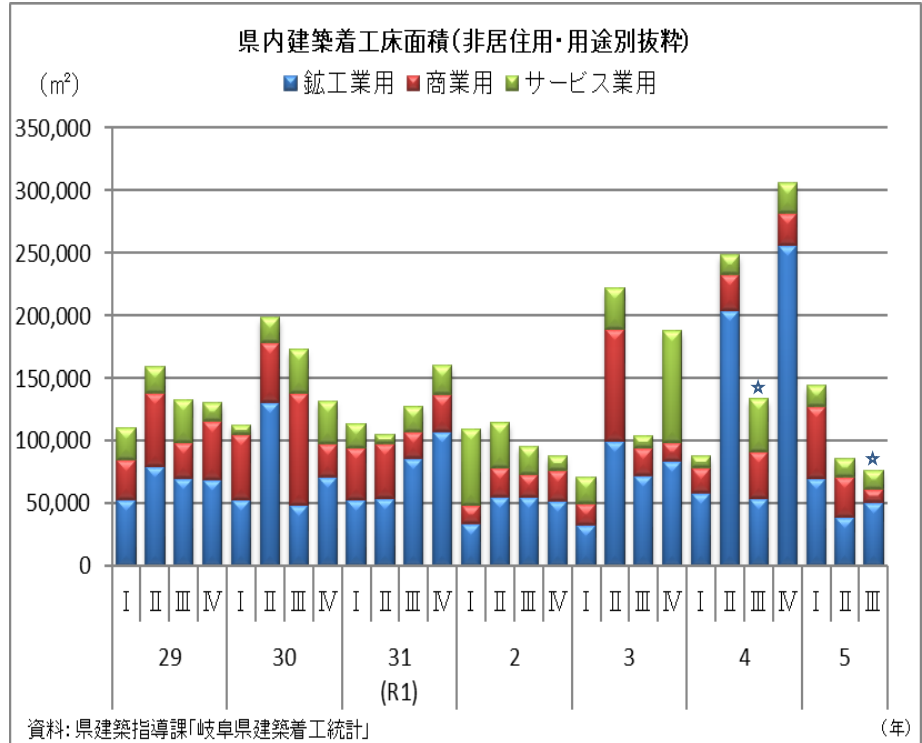
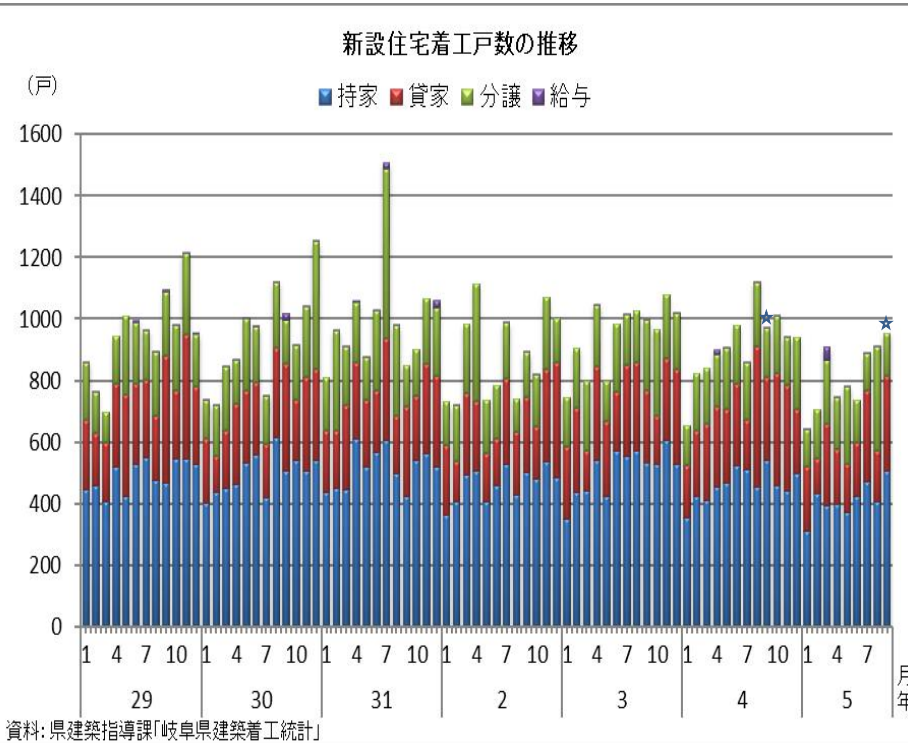
- ◆ 依然として半導体の生産調整が続いていることに加え、燃料費高騰に伴う運送費の値上げ要請があるなど、年内は厳しい状況が続く模様。(輸送機械器具)
- ◆ 受注回復により売上・利益ともコロナ前の状況に概ね戻ってきている。今年度末まではこのまま堅調に推移する見通し。(輸送機械器具)
- ◆ 2025年度以降はEV化の影響により製造部品の減少が予想されることから、業績への影響を懸念している。(輸送機械器具)
- ◆ 大手自動車メーカーの取引先で爆発事故が発生し一時生産停止となったが、今後挽回生産を行うと発表しており、今後の受注状況に影響はないと考えている。(輸送機械器具)
- ◆ 共同住宅や海外住宅向けエレベーターの受注が好調なため、上半期は増収増益の見込み。(はん用機械器具)
- ◆ 新規顧客獲得により売上は前年比で増加している。一方、納期短縮や品質改善のため外注比率が上昇し、利益は減少している。価格転嫁ができていないことも利益減少の要因となっている。(刃物)

# 住宅・建築投資

○9月の住宅着工戸数は、前年同月比▲1.7%となった。

○貸家で前年同月比14.6%上昇した一方で、給与住宅で同▲100.0%、分譲で同▲11.9%、持家で同▲6.5%となった。

○7-9月期の非居住用の建築着工床面積は、商業用で前年同期比▲71.7%、サービス業用で同▲63.9%、鉱工業用で同▲5.8%となり、全体で同▲42.7%となった。



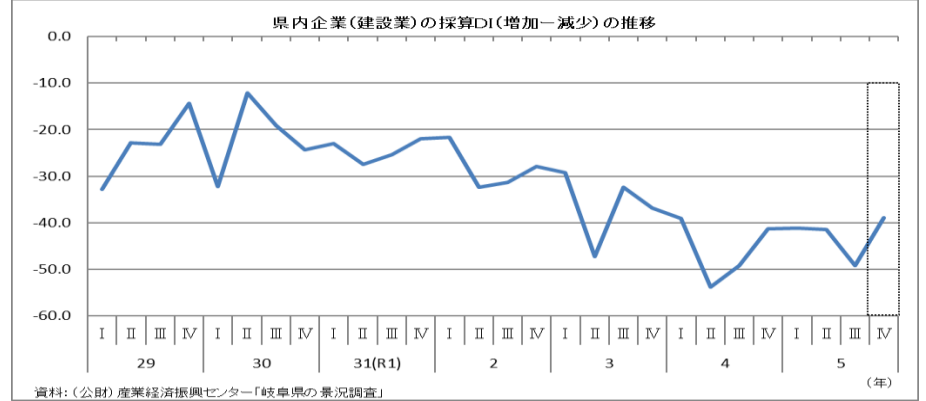
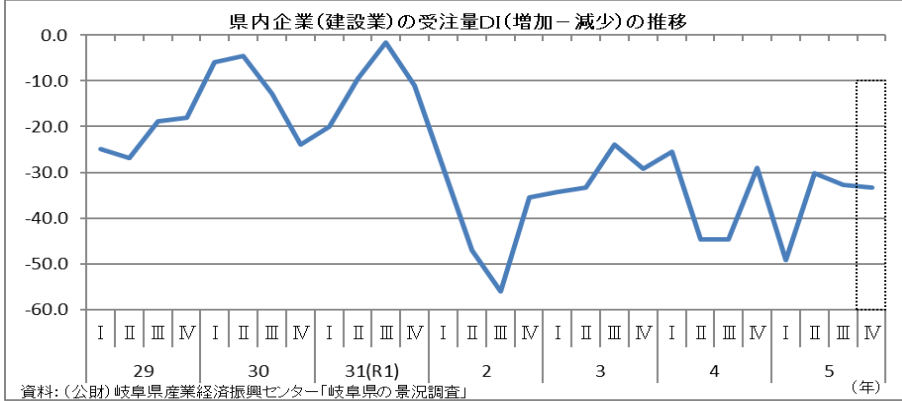
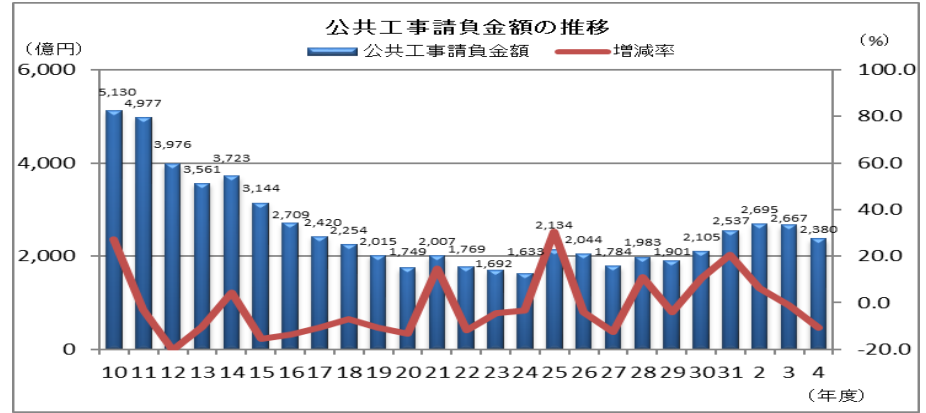
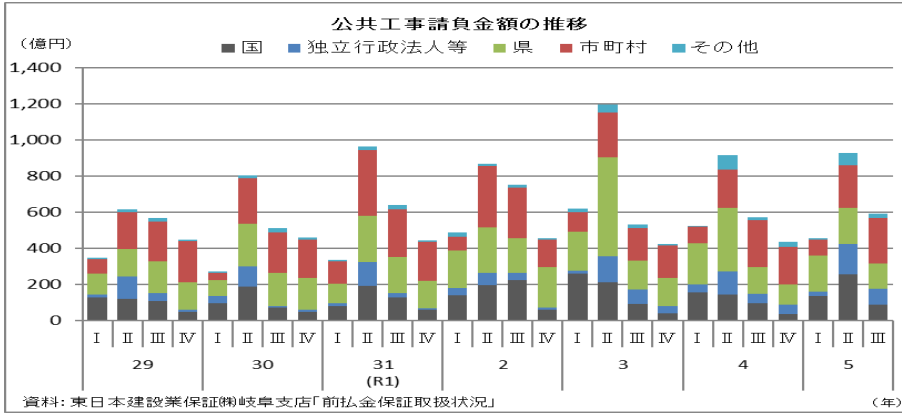
## 現場の動き

- ◆ 中国木材の工場火災の影響により代替品の価格が急騰し、仕入価格が上昇した。しかし、需要が低いため、すぐに販売価格に転嫁できず、今後の影響を不安視している。(卸売)
- ◆ 物価高騰により住宅価格が上昇し、契約数が減少していることから、これ以上の価格転嫁は困難。設計の見直しなどにより住宅価格を抑えられるよう、検討を進めていく方針。(住宅)
- ◆ 新築住宅の受注が落ち込む中、リノベーションや非住宅物件の受注が好調。(卸売、住宅)



# 公共工事

- 7-9月期の発注者別の公共工事請負金額は、国で前年同期比▲9.0%、独立行政法人等で同63.8%増加、県で同▲3.3%となるなど、全体で同3.1%増加となった。
- 県内建設業の10-12月期の受注量DI見通しは前期比▲0.6ポイントとなり、同採算DI見通しは同10.2ポイント上昇となった。



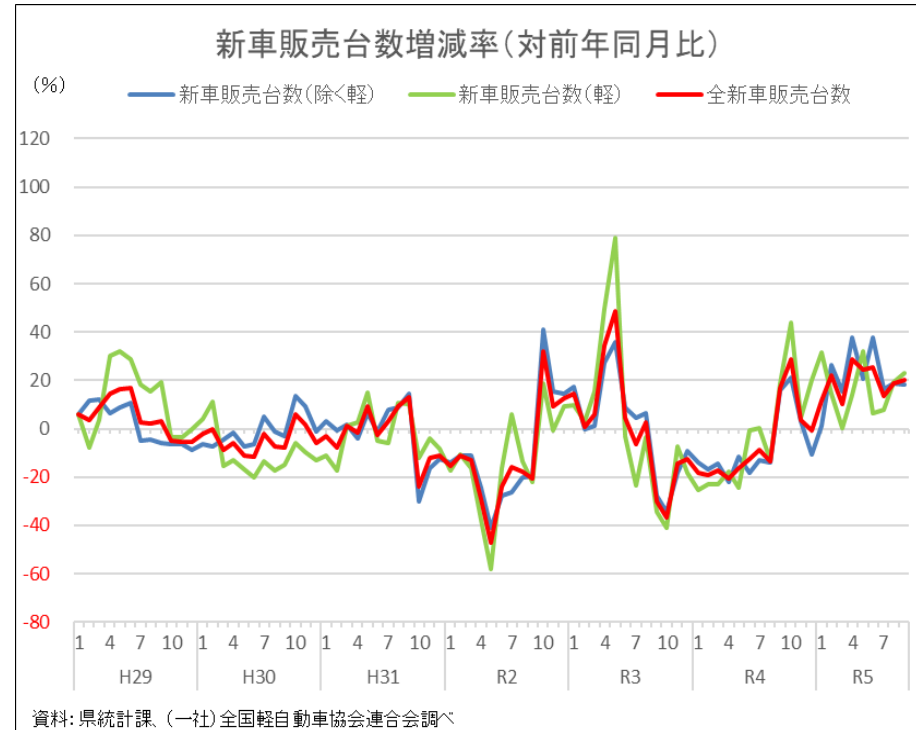
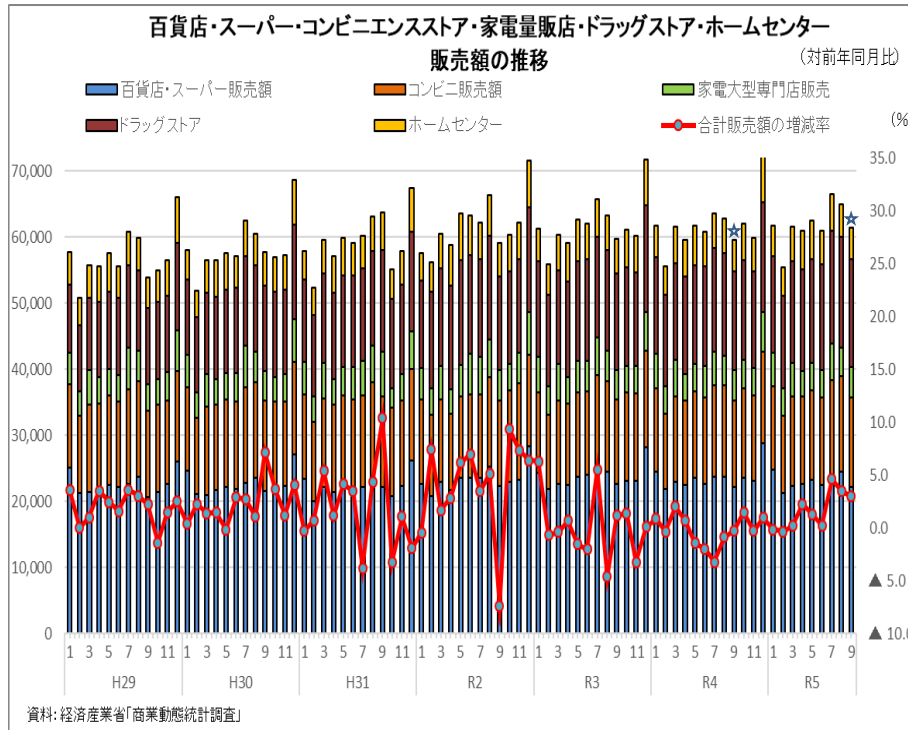
## 現場の動き

- ◆ 今年の売上及び受注は前年並みを確保できそうだが、国、地方公共団体からの年末以降の受注が少なくなってきており、来年の業績に不安を感じている。
  - ◆ 油脂関連の高値が続いているため、資材価格が高値で推移している。資材価格の高騰に設計価格が追い付かない状況が続いており、利益を圧迫している。
- (以上、建設)

# 個人消費(流通・小売)

○9月はドラッグストアで前年同月比9.5%、コンビニで同3.1%、家電大型専門店が2.3%上昇した一方で、ホームセンターで同▲2.2%、百貨店・スーパーで同▲0.2%となり、全体で同3.0%上昇となった。

○9月の新車販売台数(除く軽)は、前年同月比18.4%増加と9ヶ月連続で前年同月を上回った。軽自動車は同23.0%増加と13ヶ月連続で前年同月を上回った。合算では同20.0%増加と、前年同月を9ヶ月連続で上回った。



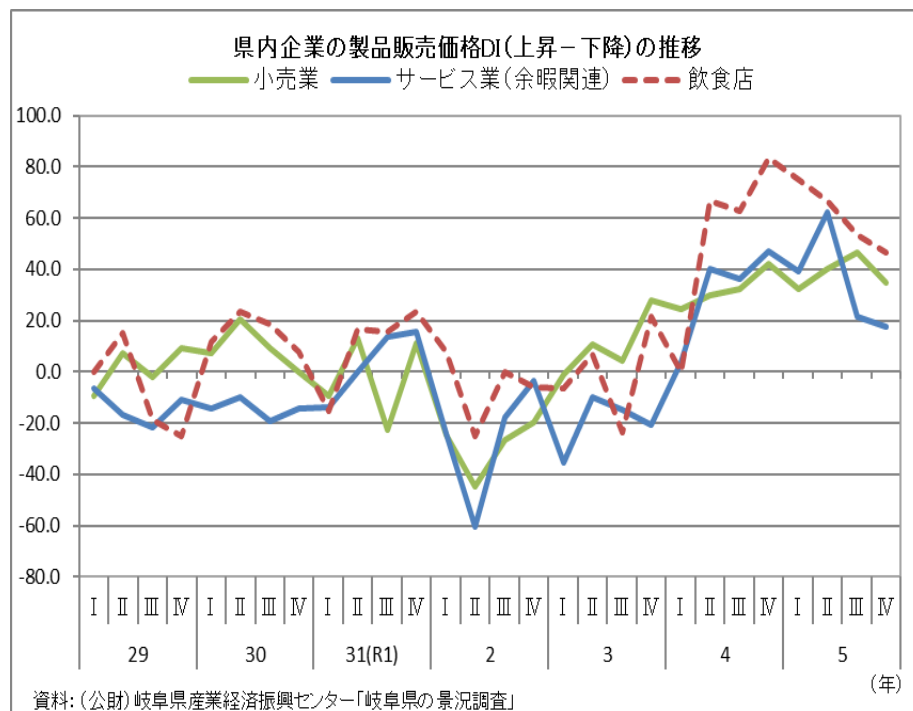
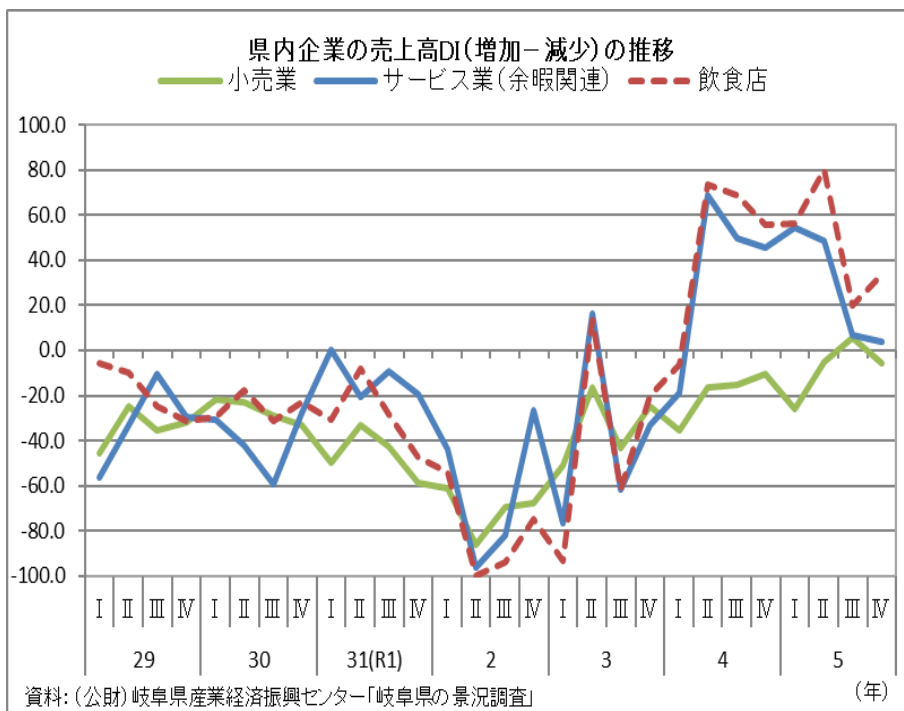
## 現場の動き

- ◆ 生鮮食品スーパーは青果部門が引き続き堅調に推移し、2019年同月比2倍の売上を計上。
- ◆ ファッション店舗は10月に入り秋物の売れ行きが好調だったため、回復傾向にある。
- ◆ 原材料高騰の影響で仕入価格の上昇が続いており、店舗によって事業継続の懸念がある。
- ◆ 飲食店や物販店、スーパーなどで人手不足の状況が続いている。特に飲食店では人材確保が非常に困難な状況。(以上、県内商業施設)

## 個人消費(流通・小売)－2

○10－12月期の売上高DI見通しは、飲食店で前期比13.4ポイント上昇した一方で、小売業で同▲11.0ポイント、サービス業(余暇関連)で同▲3.3ポイントとなった。

○同じく販売価格DI見通しは、小売業で同▲11.8ポイント、飲食店で同▲6.6ポイント、サービス業(余暇関連)で同▲3.6ポイントとなった。



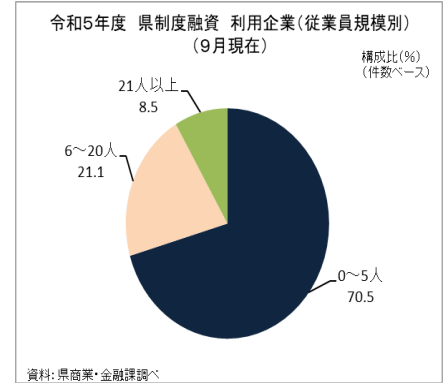
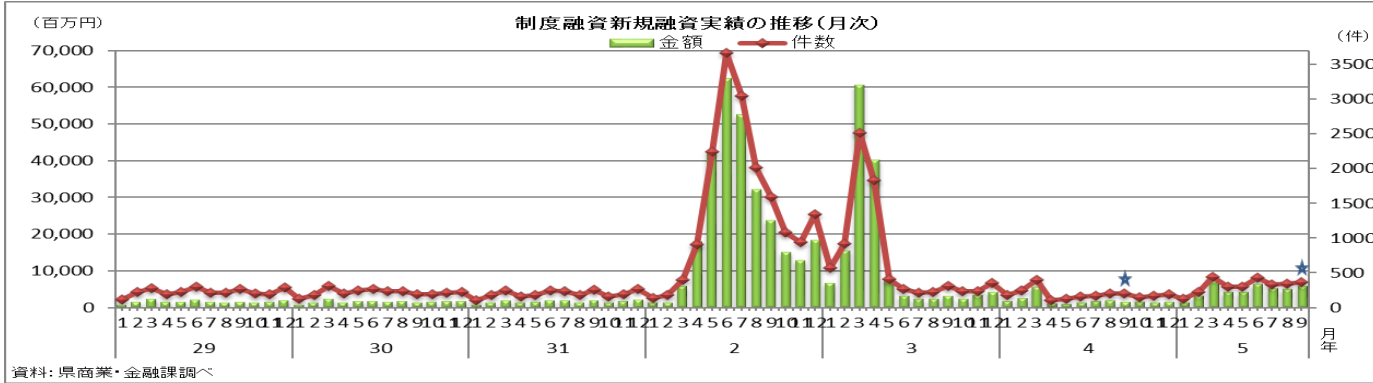
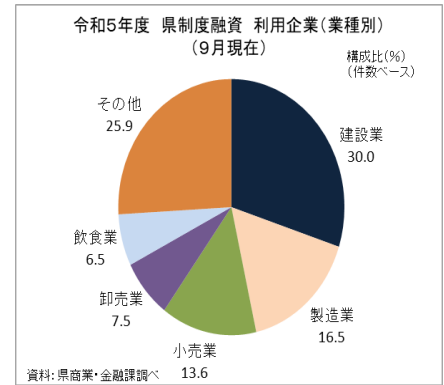
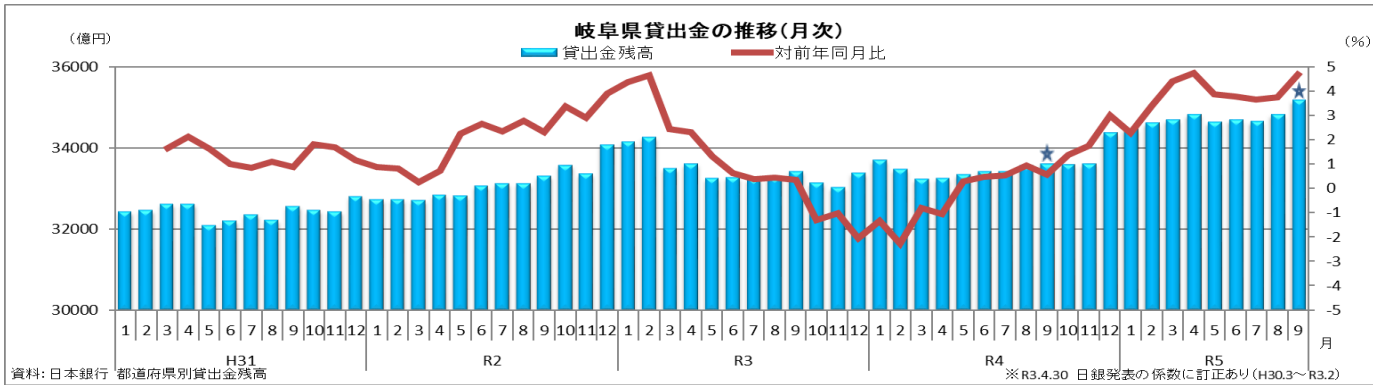
### 現場の動き

- ◆ 売上は前年比2倍だが、コロナ前と比較すると3分の1程度であり、来客減少が続いている。(柳ヶ瀬商店街)
- ◆ 岐阜高島屋の撤退について、今後の影響は計り知れず、先行き不安である。(柳ヶ瀬商店街)
- ◆ 十万石まつりが開催され人出は多かったが、値上げの影響で売上は減少傾向にある。(大垣市商店街)
- ◆ これまで値上げしていなかった主力商品数点を値上げしたが、販売数への影響はなかった。今後も様子を見ながら、順次価格転嫁を実施していく方針。(大垣市商店街)
- ◆ 値上げが全般にわたっているため、消費者の買い控えが顕著。今後も売上減少は避けられない。(高山市商店街)



# 資金繰り

- 9月の岐阜県貸出金残高は、3兆5,180億円で前年同月比4.7%増加し、17ヶ月連続で増加。
- 9月の制度融資実績は、金額が5,925百万円で前年同月比267.5%増加、件数は365件で同84.3%増加と、金額は8ヶ月連続で増加し、件数は7ヶ月連続で増加した。
- 従業員規模別は、5人以下の事業所が全体の70.5%を占めている。

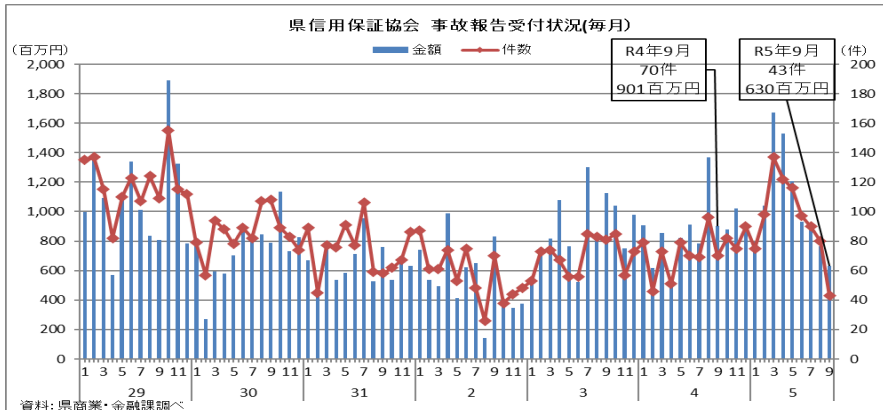
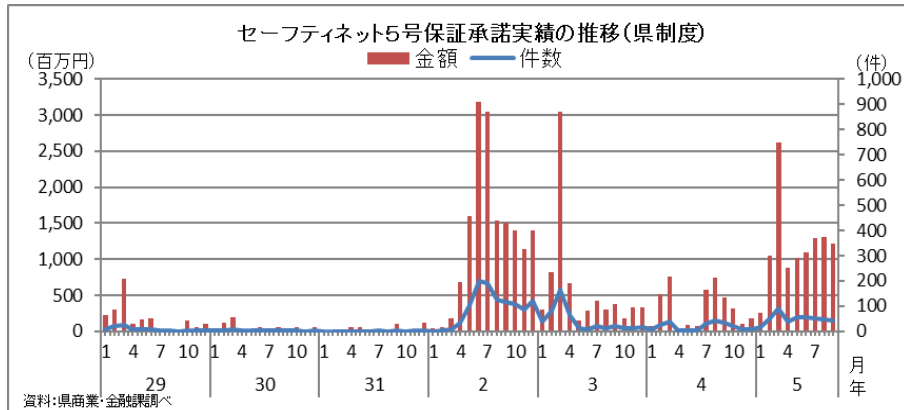
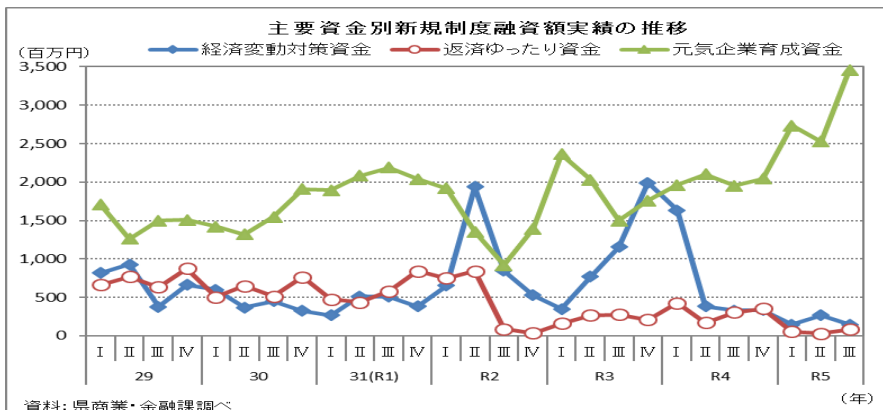
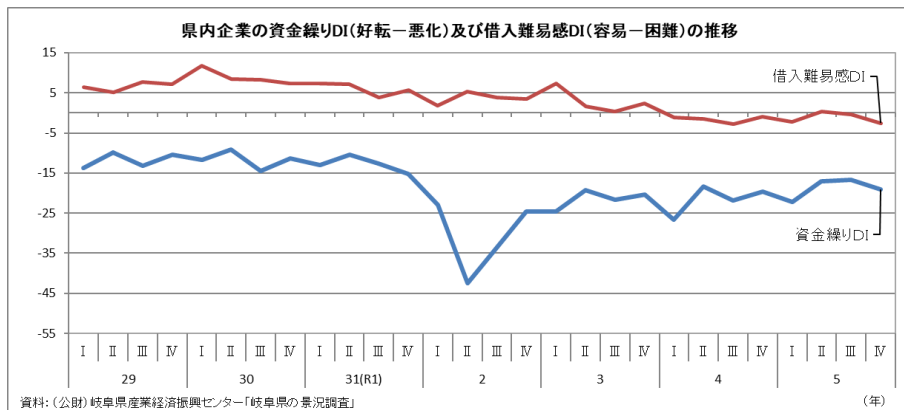


## 現場の動き

- ◆ 製造業では受注が増加傾向であることから、運転資金の需要が高まってきている。
  - ◆ ゼロゼロ融資の利子補給期間終了に伴い、繰上償還をする事業者も見受けられるが、その割合は全体の1割強とそこまで多くはない。
  - ◆ 上半期は物価高の影響により運転資金の利用が堅調だった一方、設備資金は軟調に推移した。
  - ◆ 物価高騰の影響により、倒産に追い込まれる企業が増えてきている印象。
- (以上、金融機関)

# 資金繰り-2

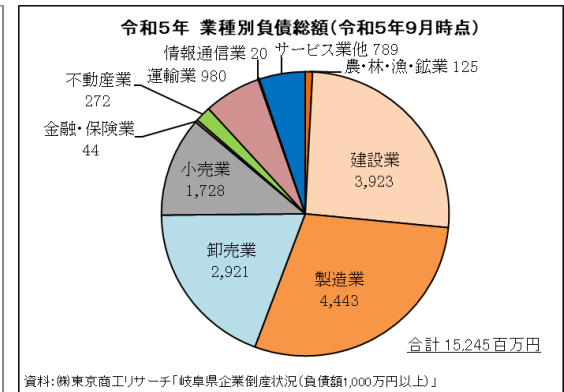
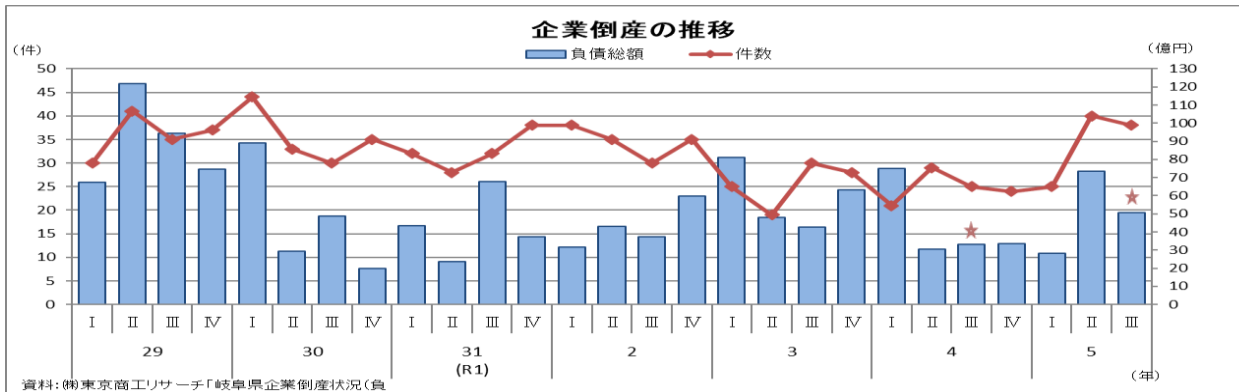
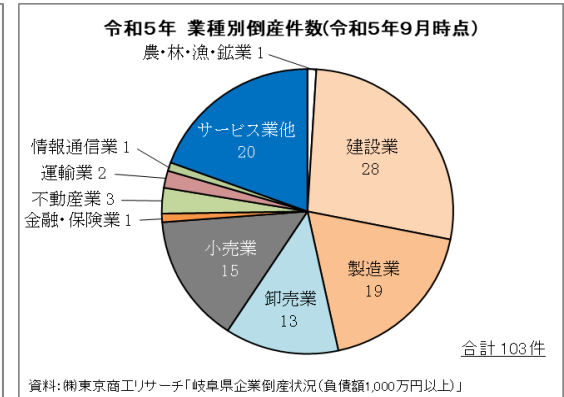
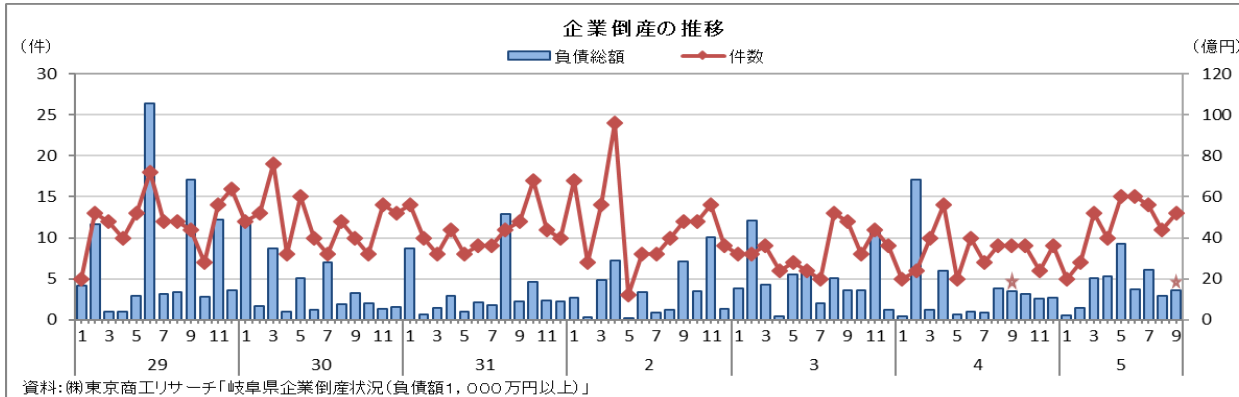
- 10-12月期の資金繰りDI見通しは▲19.0で、前期比▲2.4ポイントとなった。同借入難易感DI見通しは▲2.6で、同▲2.2ポイントとなった。
- 7-9月期の主要資金別新規制度融資実績は、元気企業育成資金で前年同期比76.9%増加と6期連続で増加したものの、返済ゆったり資金で同▲72.0%と3期連続で減少、経済変動対策資金で同▲56.5%と6期連続で減少した。
- 9月のセーフティネット5号保証承諾実績は、件数が42件で前年同月比27.3%増加、金額は1,222百万円で同157.8%増加となった。
- 9月の事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)状況は、件数は43件で前年同月比▲38.6%、金額は630百万円で同▲30.0%となった。



# 倒産

○9月単月の倒産件数は前月比2件増加の13件、負債総額は前月比266百万円増加の1,456百万円となった。

○令和4年9月は負債総額1億円以上の倒産は5件発生し、令和5年9月は同倒産3件と2件減少。負債総額は前年同月比▲101百万円の1,106百万円となった。



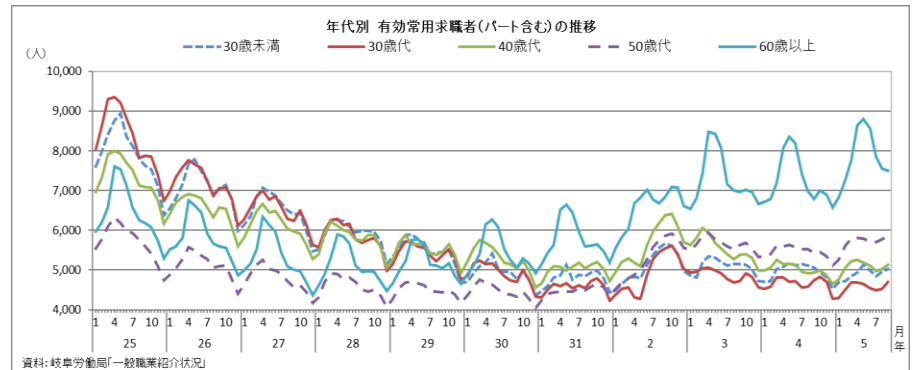
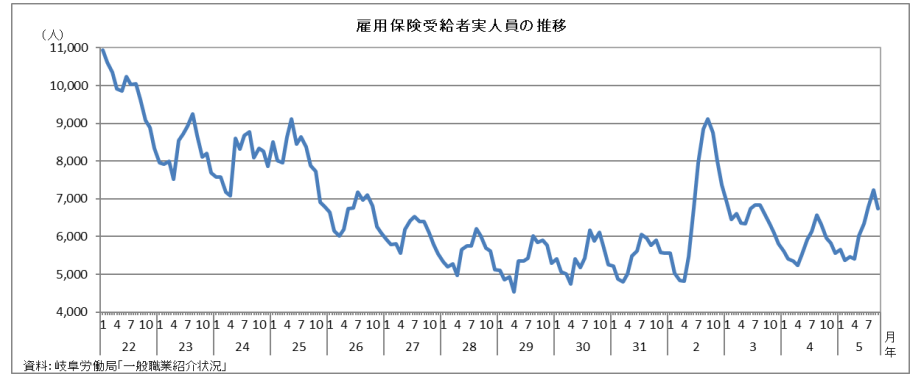
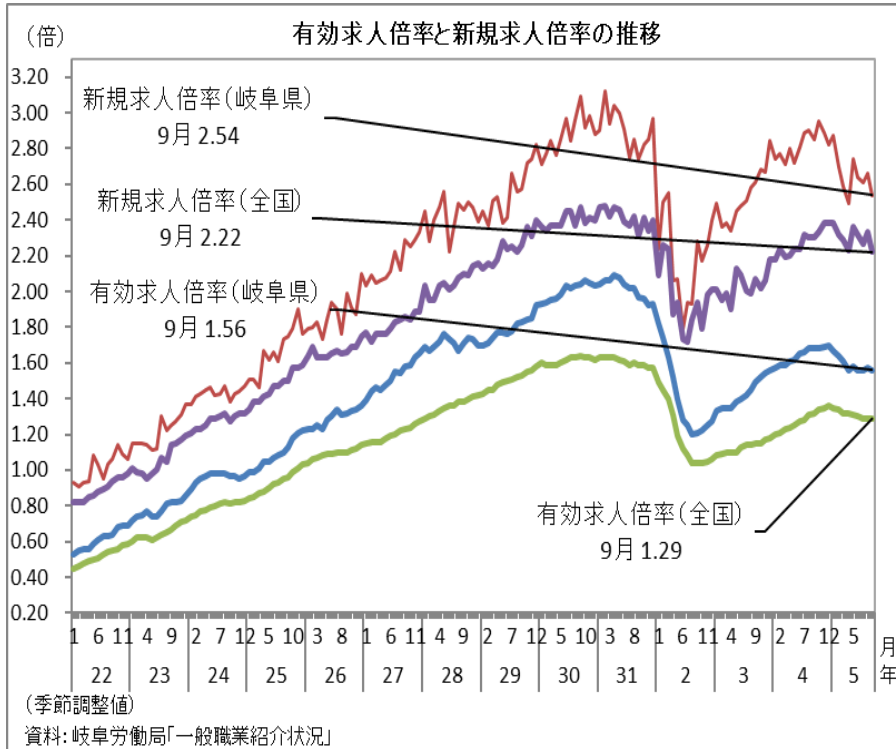
## 専門機関の分析(東京商工リサーチ・10月12日時点)

◆国内経済情勢としては、新型コロナウイルス感染症の活動制限が段階的に緩和され、社会経済活動の正常に向けた動きが見られた。しかし、原材料・エネルギー価格の高騰、円安による輸入原材料等仕入価格の上昇や運送費の上昇、営業活動の正常化による経費増など、あらゆるコスト負担が経営を圧迫している。アフターコロナの支援策が相次いで終了・縮小する中で、ゼロゼロ融資の返済や物価高、人手不足などが重なり、中小企業の資金繰りは厳しい状況が続く。このため、業績回復が進まず過剰債務で金融機関の支援が難しい企業を中心に、企業倒産件数は一段と増勢を辿る可能性が高まっている。

# 雇用

- 9月の有効求人倍率は1.56倍と、前月比 ▲0.01ポイントとなった。
- 9月の新規求人倍率は、2.54倍と前月比 ▲0.12ポイントとなった。

- 9月の雇用保険受給者人員は、前月比 ▲6.9%となった。
- 有効常用求職者は、40歳代以上で、前年同月比で上昇した。



## 現場の動き

- ◆ 増産傾向であるが、人手が不足苦慮している。(輸送機械器具)
- ◆ ITに精通し、管理業務を担うことができる人材が不足している。(輸送機械器具、プラスチック製品)
- ◆ 技能実習制度の見直しにより転籍が認められることとなると、他社への人材流出が起こり、ますます人材確保が困難になると懸念している。(プラスチック製品)
- ◆ 価格転嫁が不十分なため賃上げができず、新卒採用難や相次ぐ離職に頭を悩ませている。(繊維・アパレル)
- ◆ 新卒採用のため、時間外勤務削減のための事務見直しや休暇の取得を推進している。(刃物)

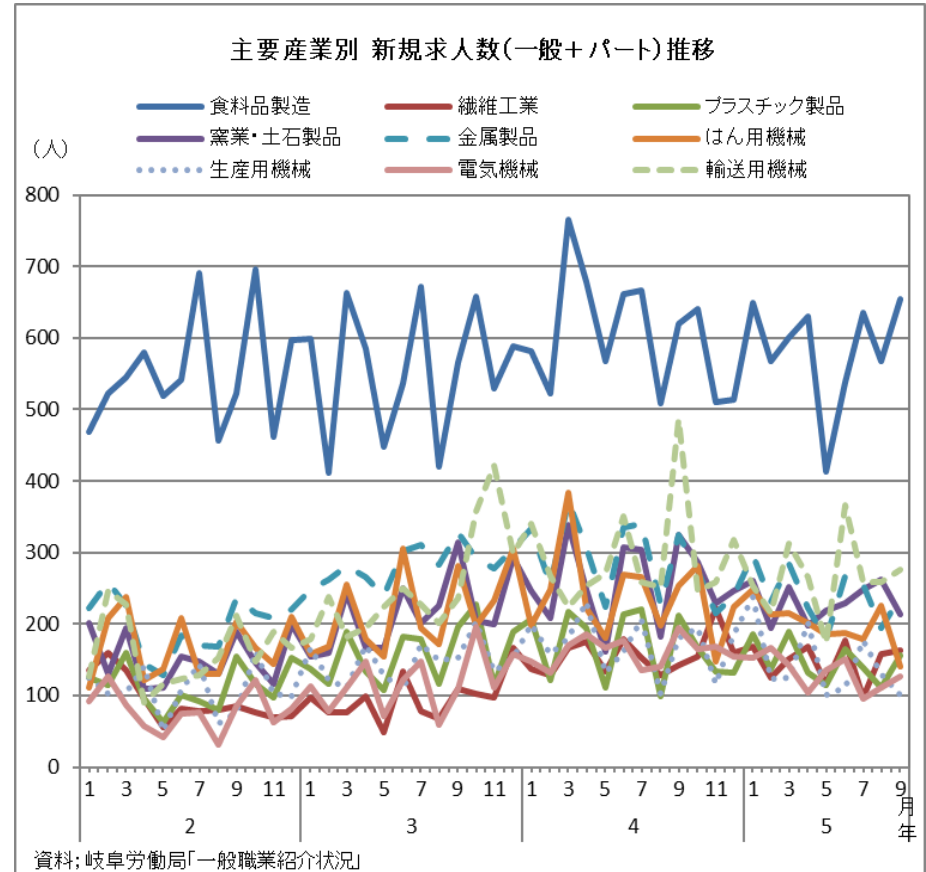
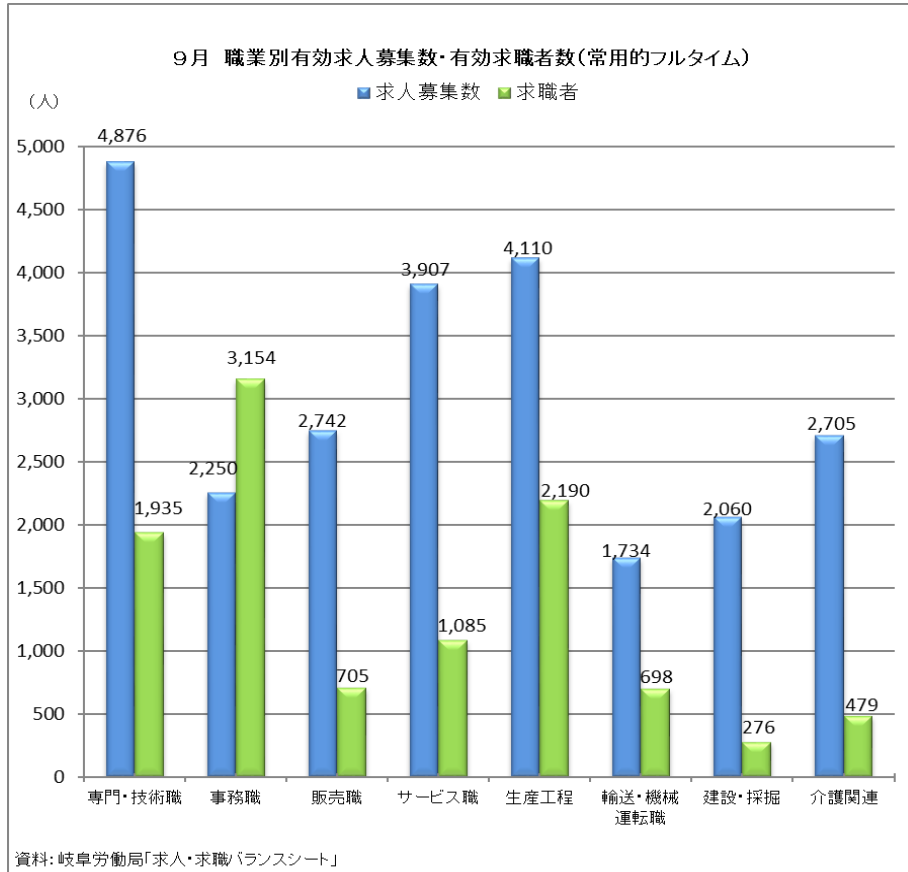


# 雇 用(職業別)

○有効求人倍率は、建設・採掘で7.46倍、介護関連で5.65倍、販売職で3.89倍、サービス職で3.60倍など、引き続き人手不足の状況は続いている。

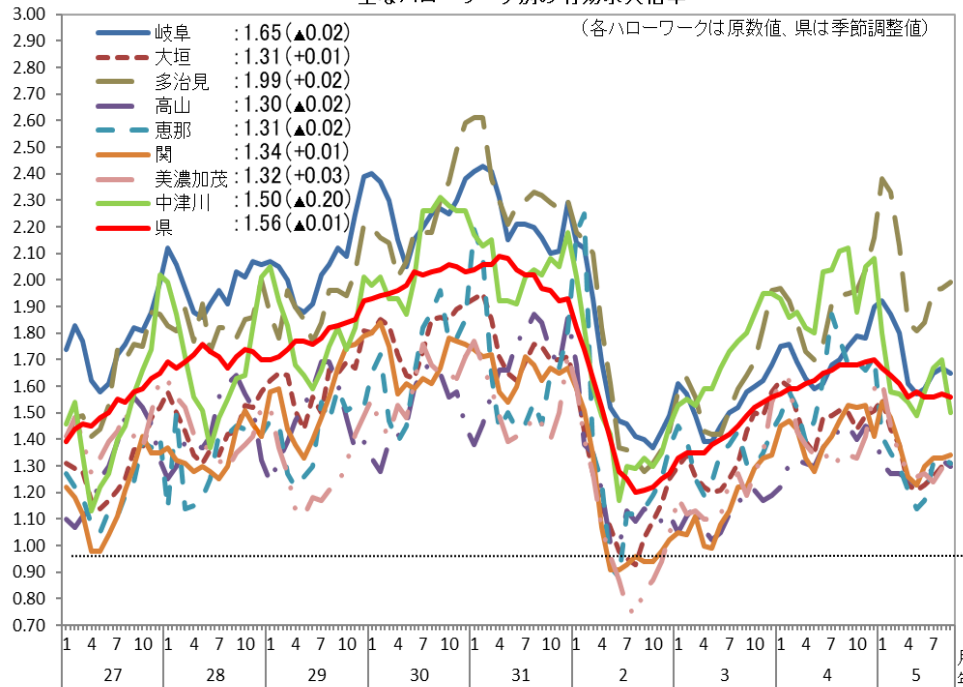
○一方で、事務職の有効求人倍率は0.71倍に留まり、求職者のニーズと、求人側のニーズのミスマッチが続いている。

○9月の主要産業別の新規求人数は、繊維工業で前年同月比14.8%、食料品製造で同5.6%上昇した一方で、はん用機械で▲44.5%、生産用機械で同▲44.2%、輸送用機械で同▲43.2%、電気機械で同▲34.5%、窯業・土石製品で同▲34.2%、金属製品で同▲26.8%、プラスチック製品で同▲25.9%となった。



# 雇用(地域別)

主なハローワーク別の有効求人倍率



注1: 大垣所分は揖斐出張所分を含む 注2: 平成21年4月以降の関所分は岐阜八幡出張所を含む  
資料: 岐阜労働局「一般職業紹介状況」

○9月の主なハローワーク別の有効求人倍率は、岐阜、高山、恵那及び中津川で低下した。

## 現場の動き(前月比)

### <ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数、求職者数はやや増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク大垣>

- ◆求人者数、求職者数はやや減少。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

### <ハローワーク多治見>

- ◆求人者数は増加、求職者数はやや増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク高山>

- ◆求人者数は減少、求職者数はやや減少。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

### <ハローワーク恵那>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

### <ハローワーク関>

- ◆求人者数は増加、求職者数はやや増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数はやや減少。
- ◆雇用保険受給者数はやや増加。

### <ハローワーク中津川>

- ◆求人者数、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <窓口の様子>※前月比

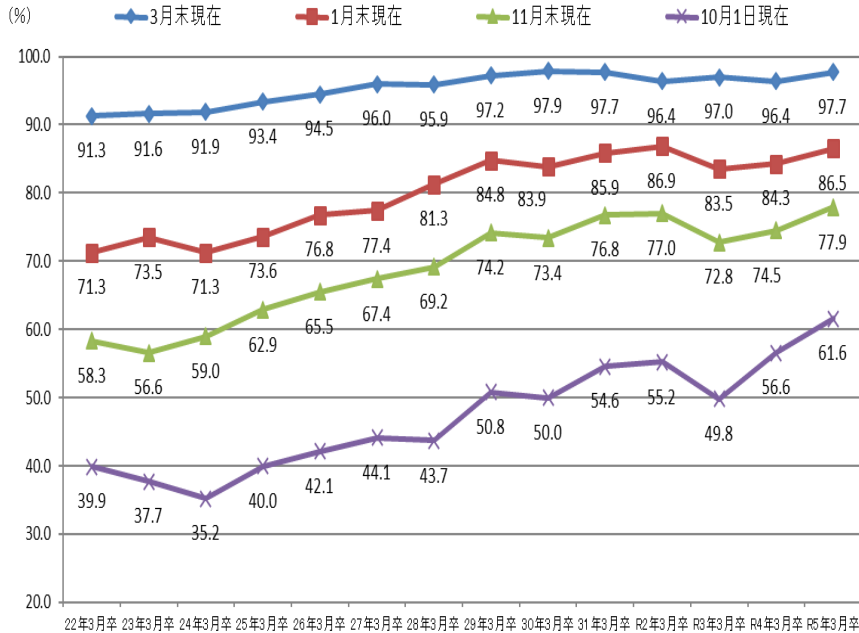
- ◆中津川で混雑している、大垣、多治見、高山、恵那及び関でやや混雑している、美濃加茂で前月と同じくらい、岐阜で空いている状況。

# 雇 用(大学・短大新卒者の就職)

○岐阜県の令和5年3月末現在の大学・短大卒業者(令和5年3月卒業)の就職内定率は、97.7%であり、前年同時点と比べ1.3ポイント増加となった。

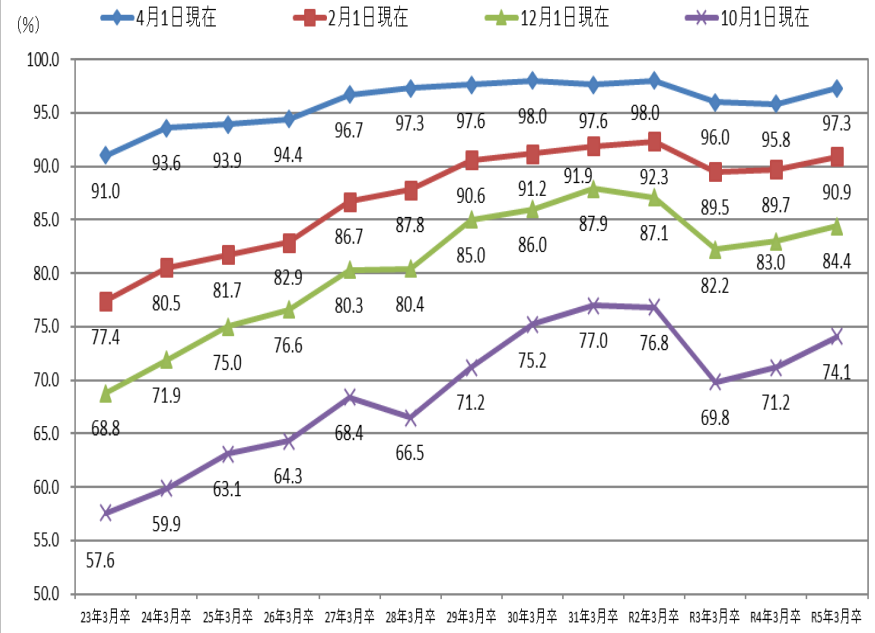
○全国の令和5年4月1日現在の大学卒業者(令和5年3月卒業)内定率は97.3%であり、前年同時点と比べ1.5ポイント増加となった。

新規卒業者(大学・短大)の就職内定率の推移<岐阜県>



資料:岐阜労働局「新規学校卒業者(大学・短大)の就職内定状況」

新規卒業者(大学)の就職内定率の推移<全国>



資料:厚生労働省「大学等卒業予定者の就職状況調査」

## 現場の動き(2024卒、2025卒の動きなど)

### <大学へのヒアリング>

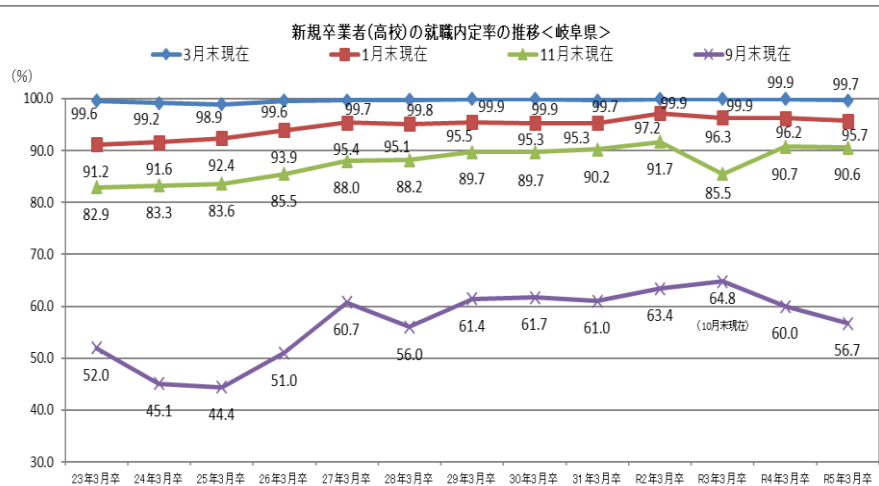
- ◆ 24年卒はほとんどの学生が就活を終了しており、相談は少ない。
- ◆ 25年卒の相談が夏休み明けから増えている。インターンについての相談が多い。
- ◆ 25年卒の一部では選考についての相談もあり、昨年と比べて動きが早まってきている印象。

(以上、岐阜・愛知県内大学)

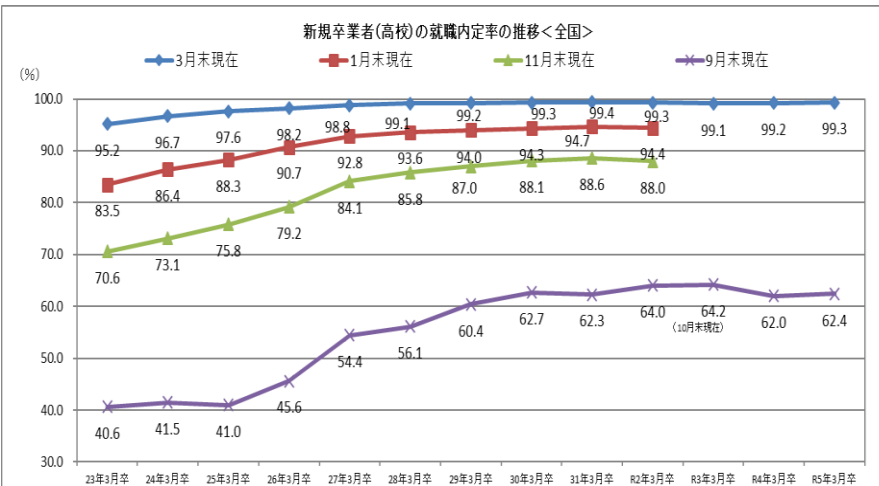
# 雇用(高校新卒者の就職)

○岐阜県の令和5年3月末現在の高校卒業者(令和5年3月卒業)の就職内定率は99.7%であり、前年同時点と比べ▲0.2ポイントとなった。

○全国の令和5年3月末時点の高校卒業者(令和5年3月卒業)の就職内定率は99.3%であり、前年同時点と比べ0.1ポイント上昇した。

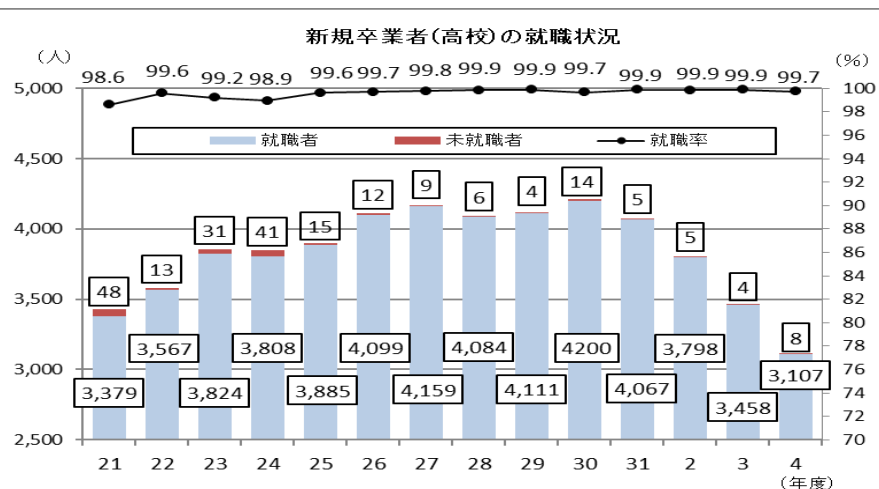


資料:岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

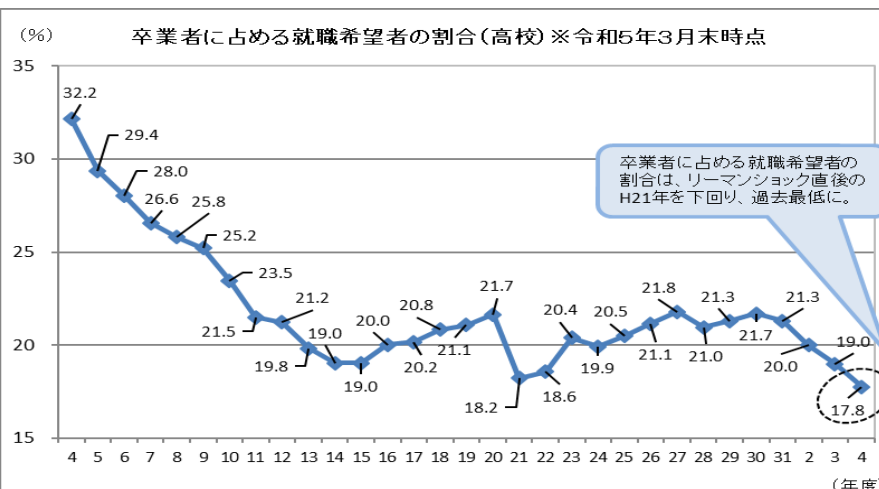


資料:厚生労働省「高校・中学校新卒者の求人・未就・内定状況等」

※R3年3月卒から「11月末」及び「1月末」は集計していない。



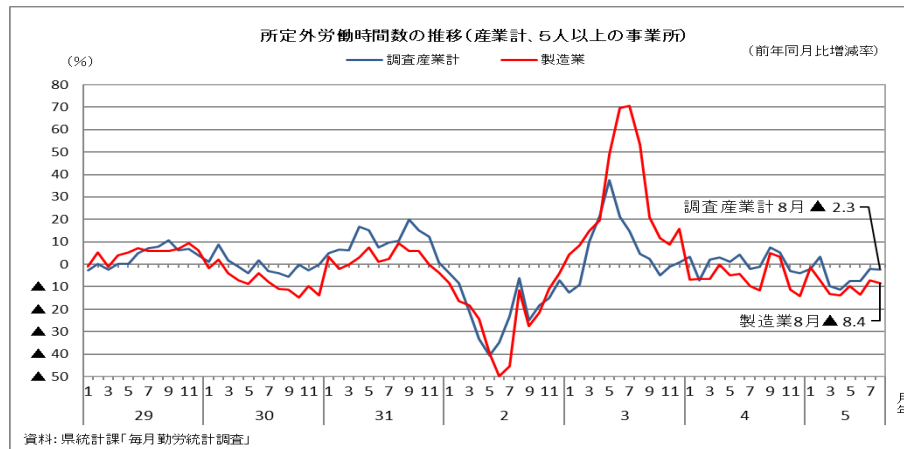
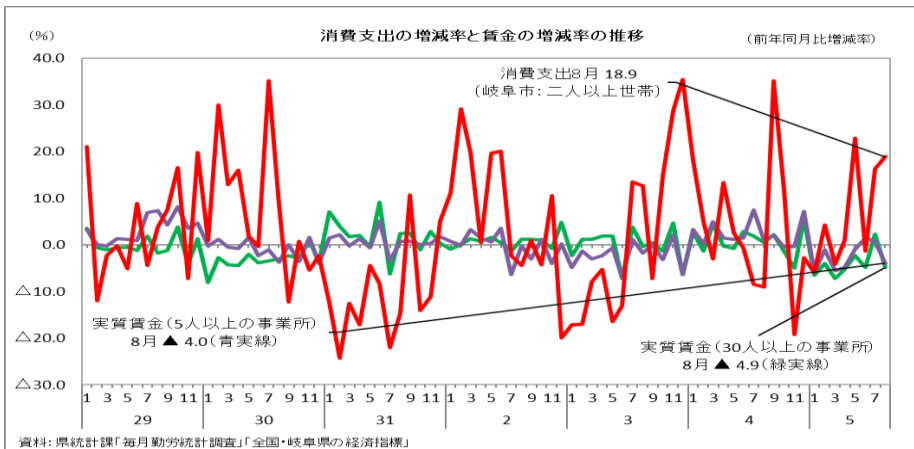
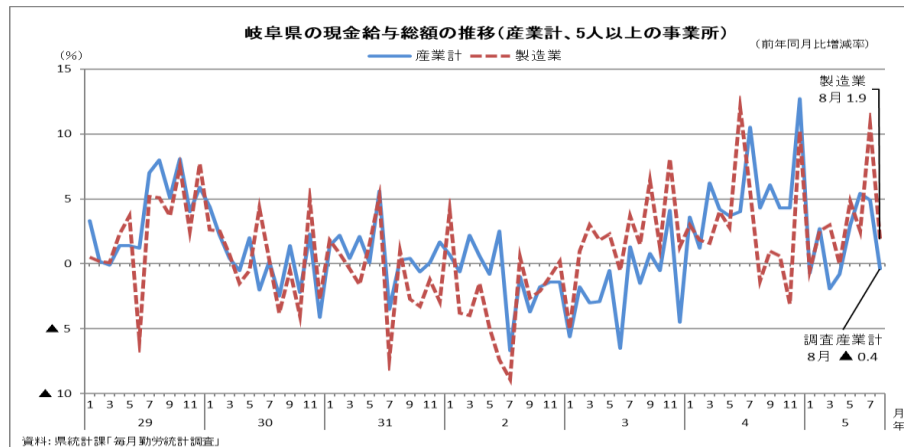
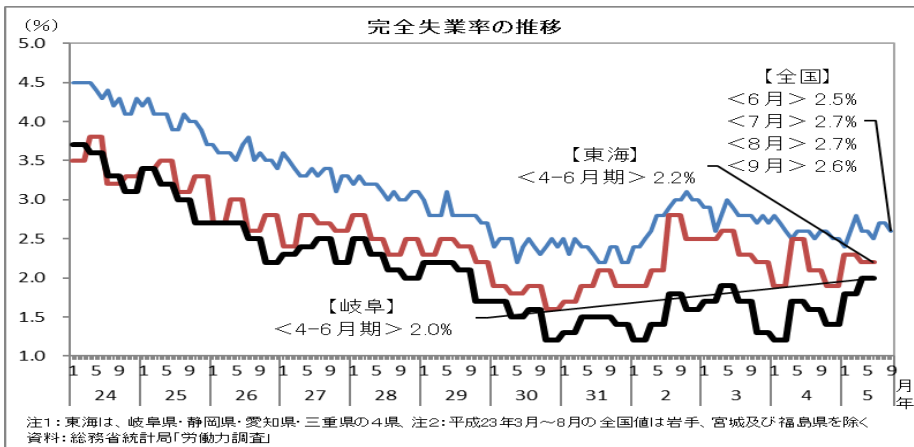
資料:岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」



資料:岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

# 雇 用(完全失業率等)

- 全国の9月の完全失業率は2.6%で前月比▲0.1ポイントとなった。岐阜県の4-6月期の平均は2.0%で前期比0.2ポイント上昇となった。
- 8月の現金給与総額は、調査産業計で前年同月比▲0.4%、製造業で同1.9%上昇となった。
- 8月の実質賃金増減率は、30人以上の事業所で前年同月比▲4.9%となり、5人以上で同▲4.0%となった。8月の消費支出については同18.9%上昇となった。
- 8月の所定外労働時間数は前年同月比▲2.3%と、6ヶ月連続で低下した。



# <経済・雇用の現状（総括）>

- 製造業は、8月の鉱工業生産指数は前月比▲3.1%となった。ヒアリングでは、円安や生産回復により売上が増加しているとの声や、価格転嫁が認められやすくなってきており、過去の電気代高騰分まで転嫁を認めるメーカーがあるとの声が聞かれた一方で、中国や欧州の景気減速により、工作機械分野や建設機械分野の受注が減少しているとの声や、自動車のEV化による製造部品の減少が与える業績への影響を懸念する声が聞かれた。
- 地場産業は、8月の鉱工業生産指数は、木材・木製品及び食料品で低下した。ヒアリングでは、インバウンド需要で受注が好調であるとの声や、価格転嫁や円安の効果で売上や利益が増加しているとの声が聞かれた一方で、ガス料金の値上げや円安による輸入コストの上昇などにより、生産コストが上昇し利益が押し下げられているなか、価格転嫁が不十分なため、今後も値上げを行わなければならないとの声が聞かれた。
- 設備投資は、9月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比▲11.2%となった。ヒアリングでは、インボイス制度に対応した設備や人手不足に対応する設備導入、老朽化に伴う設備更新を行ったとの声が聞かれた一方で、経営状況の悪化により大規模な設備投資は控えているとの声や、自動車のEV化の先行きが不透明であるため、今後の投資計画を見合わせているとの声も聞かれた。
- 個人消費は、9月の販売額は、ドラッグストア、コンビニ及び家電大型専門店で前年同月比で上昇し、全体で同3.0%上昇となった。ヒアリングでは、生鮮食品スーパーの売上が好調との声やファッション店舗で売上が回復傾向にあるとの声が聞かれた一方で、仕入価格の上昇により、店舗によっては事業継続に懸念があるとの声が聞かれた。
- 観光は、9月の観光客数、宿泊者数はコロナ前の令和元年同月比▲15.9%、▲14.6%となった。宿泊施設からのヒアリングでは、インバウンドの動きが好調との声が聞かれた一方で、物価高騰により経営を圧迫しているとの声や、人材不足が深刻化しているとの声が聞かれた。
- 企業の資金繰りは、9月の制度融資実績は、8ヶ月連続で金額が増加した。金融機関からは、受注が増加傾向にある製造業では、運転資金の需要が高まっているとの声が聞かれた一方で、設備資金は軟調に推移しているとの声や、物価高騰により、倒産に追い込まれる企業が増えてきているとの声も聞かれた。
- 雇用面は、9月の有効求人倍率は1.56倍と24ヶ月連続で1.50倍を超えた。ヒアリングでは、IT人材が不足しているとの声や、価格転嫁が不十分なため賃上げができず、新卒採用難や離職に頭を悩ませているとの声、更には、技能実習制度の見直しにより転籍が認められると、他社への人材流出が起こり、ますます人材確保が困難になるとの声も聞かれた。